

様式第 5 号（教育実習実施計画に関する書類）

教 育 実 習 等 実 施 計 画	
1	教育実習等の内容及び成績評価等
①	教育実習等の時期 4 年次の 5 月～7 月、9 月～11 月
②	教育実習等の実習期間・総時間数 中学校教諭一種免許状：3 週間以上（120 時間以上） 高等学校教諭一種免許状：2 週間以上（80 時間以上）、 （実習校の指示、受入条件に従って実施する。）
③	実習校の確保の方法 教育実習の前年度 5 月～9 月に教職課程専任教員を中心に大学において調整し、実習協力校および近隣の学校に依頼する。特段の事情のある学生（特別な配慮が必要な学生、遠隔地での実習を希望する学生等）については、個別に協議の上、条件に該当する学校に大学から依頼する。
④	実習内容 教育実習校において、教科の学習指導・授業の見学および実習、学級・ホームルーム活動や学校行事等の特別活動の見学および指導実習、課外部活動の指導実習、その他、生徒指導、校務分掌などの実習を行う。授業実習においては指導教諭による指導の下、学習指導案、教材、板書計画等を作成し、授業後の研究協議を行う。また、実習の総括として研究授業を行う。 中学校教諭一種免許状 全授業時間 120 時間以上で以下の内訳を標準とする。 ・授業参観 55 時間以上 ・授業担当 10 時間以上(うち研究授業 2 時間以上) ・研究指導(教材研究を含む)50 時間以上 ・特別活動・学級経営への参加 5 時間以上 高等学校教諭一種免許状 全授業時間 80 時間以上で以下の内訳を標準とする。 ・授業参観 33 時間以上 ・授業担当 7 時間以上(うち研究授業 2 時間以上) ・研究指導(教材研究を含む)35 時間以上 ・特別活動・学級経営への参加 5 時間以上
⑤	実習生に対する指導の方法 授業科目としての「教育実習Ⅰ」、「教育実習」の前後におこなう事前指導、事後指導により総合的に行う。 教育実習期間中は、実習生が所属する各学部ゼミの教員または教職課程専任教員による教育実習校への訪問指導を、遠方での実習を除きほぼ全員に対して行っている。教育実習校に訪問できない場合は、電話等で教育実習校と連絡を取っている。 訪問指導では、実習生の授業を参観するほか、実習生との個別の面談および実習校の教員を交えた協議、懇談を行う。その他、実習生全員に対し、随時、電話、電子メール等を利用し、相談対応、指導を行っている。

⑥ 実習の成績評価（評価の基準及び方法）

※ 評価項目表、評価シート等がある場合は、本計画書に添付すること。

教育実習校からの実習成績報告を中心に、事前指導、事後指導、総括講義での受講態度ならびに実習体験報告レポート、教育実習記録（学習指導案、実習日誌、総括的自己評価等）の内容により、教職課程専任教員が協議し、総合的に評価している。

※「教育実習成績報告書」を添付

2 事前及び事後の指導の内容等

① 時期及び時間数

授業科目としての「教育実習Ⅰ」、「教育実習」の前後におこなう事前指導、事後指導がある。

教育実習Ⅰ：教育実習の前年度後期（9月～1月）30時間

事前指導：4月～5月の土曜日2回、8時間

事後指導：7月～10月の土曜日2回、6時間

総括講義：11月の土曜日1回、4時間

② 内容（具体的な指導項目）

教育実習Ⅰ：①教育実習の意義

②教育実習をめぐる最近の傾向

③実習の目的、内容、方法、形態等についての理解

④教育実習の実際(中学校)(高校)

⑤授業の方法と技術

⑥学習指導案の作成

⑦模擬授業

⑧実習校における勤務の要領

⑨新しい学習指導要領と学習指導上の課題

⑩学校における人権教育

⑪学校保健と安全指導

⑫特別支援教育の現状と課題

⑬授業の記録と評価

事前指導：①教育実習上の心がまえ・諸注意（マナー、守秘義務を含む）

②授業実習映像視聴および研究協議

③現職教員による講義

④教育実習記録簿の記入についての説明

⑤実習評価票の説明

事後指導：①実習生をグループに分けての研究テーマの設定および討議

②グループごとの研究成果の発表と全体討議

③総括講義

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。）

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

・委員会等の名称

摂南大学教職支援センター運営委員会

・委員会等の構成員（役職・人数など）

教務部長、教職支援センターの教員、
教職課程を設置する各学部から選出された教員各1名、
就職部の中から就職部長が指名した者1名、
その他必要に応じて学長が任命した者

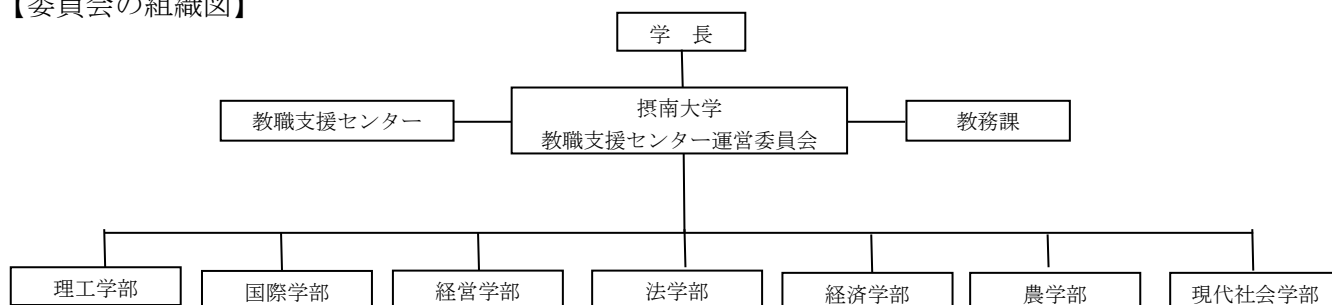
・委員会等の運営方法

学長の諮問に応じて、全学の教職課程に関する事項（授業計画、教職課程の運営、課程認定申請、自己点検・評価等）について審議する。

委員長は教務部長、委員会の議事定足数は委員の3分の2以上の出席となっている。

委員会の庶務は教務部教務課で取り扱う。

【委員会の組織図】



② 大学外の関係機関（例：都道府県及び市区町村教育委員会など）との連絡調整等を行う委員会等（※学校体験活動を含む場合は、大学と学校との連携体制についても記載すること。）

・委員会等の名称

教職支援センター

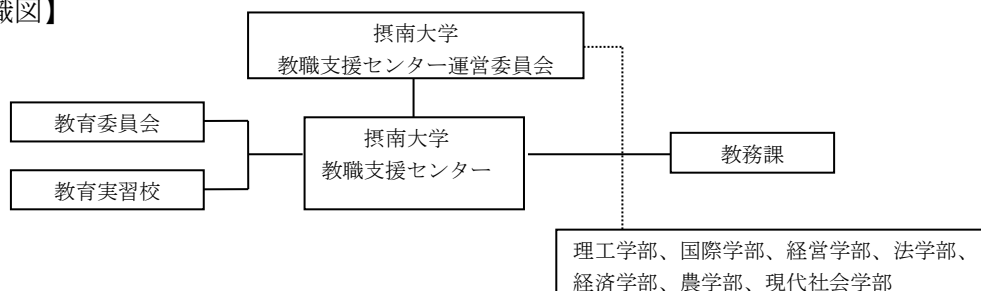
・委員会等の構成員（役職・人数など）

教務部長、教職支援センター教員5名、教務課長、教務課教職課程担当者2名

・委員会等の運営方法

教育実習の日程、実習生の配当、大学からの教育実習中の指導教員の派遣等のほか、必要な事項については、教職支援センター主任を中心に教職支援センター教員が行い、学外関係機関との連絡調整等の実務を教務課が行う。

【委員会の組織図】



4 教育実習の受講資格

1. 教職課程において履修年次が3年次までの「教育の基礎的理解に関する科目」および「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち、全ての必修科目を修得していること。
2. 実習予定免許教科の「教科及び教科の指導法に関する科目」について、次の①～③を充足していること。
 - ① 「教科教育法」を4単位以上修得していること。
 - ② 「教科に関する専門的事項」に関する科目を20単位以上修得していること。
 - ③ 「教科に関する専門的事項」に関する科目について、教育職員免許法施行規則第四条あるいは第五条に定める専門的事項ごとに最低修得単位数1単位以上を修得していること。ただし、理科の「地学」および「地学実験」、工業および商業の「職業指導」、数学（電気電子工学科を除く）の「確率論、統計学」、情報の「情報と職業」についてはこの限りでない。
3. 前年度に実習校の内諾を得ていること。
4. 「英語科」の免許状取得希望者については、前年度1月末までに受験したTOEIC L&Rにおいて、リーディングセクションのスコアが250点以上に達すること。

なお、「教育実習Ⅰ」を除く履修要件1に指定する科目を、特別履修などによっても複数年度における履修機会を得られなかったために未修得の者は、特例として「教育実習Ⅱ・Ⅲ」の履修を許可する場合がある。

5 実習校

教育実習	体験活動	学級数の合計	中学校 33 学級、高等学校 79 学級
○	×	学校名	寝屋川市立第二中学校（大阪府寝屋川市池田西町 27-7） 学級数：12 生徒数：459 人
		教員数	30 人 （内訳）教諭 22 人、助教諭 0 人、講師 7 人、養護教諭 1 人、養護助教諭 0 人、栄養教諭 0 人
○	×	学校名	常翔学園中学校（大阪市旭区大宮 5-16-1） 学級数：12 生徒数：399 人
		教員数	26 人 （内訳）教諭 16 人、助教諭 0 人、講師 8 人、養護教諭 2 人、養護助教諭 0 人、栄養教諭 0 人
○	×	学校名	常翔啓光学園中学校（大阪府枚方市禁野本町 1-13-21） 学級数：9 生徒数：222 人
		教員数	17 人 （内訳）教諭 10 人、助教諭 0 人、講師 6 人、養護教諭 1 人、養護助教諭 0 人、栄養教諭 0 人
○	×	学校名	常翔学園高等学校（大阪市旭区大宮 5-16-1） 学級数：46 生徒数：1,976 人
		教員数	92 人 （内訳）教諭 55 人、助教諭 0 人、講師 35 人、養護教諭 2 人、養護助教諭 0 人、栄養教諭 0 人
○	×	学校名	常翔啓光学園高等学校（大阪府枚方市禁野本町 1-13-21） 学級数：33 生徒数：1,225 人
		教員数	61 人 （内訳）教諭 39 人、助教諭 0 人、講師 20 人、養護教諭 2 人、養護助教諭 0 人、栄養教諭 0 人

教育実習成績報告書

(撰 南 大 学)

年 月 日

実 習 校

都道府県名	学 校 名	学 校 長 氏 名	実 習 指 導 教 諭 氏 名
		印	印

実習生・実習教科

学 部 ・ 学 科	氏 名	実 習 教 科 名

出 勤 状 況

実 習 期 間	出席すべき日数	出席した日数	欠 席 し た 日 数	遅 刻	早 退
自 月 日	日	日	病 欠 日		
至 月 日			事故欠 日		
			その他 日		

事 項 別 評 価

[A 優 B 良 C 可 D 不可]

区分	事 項 (お も な 着 眼 点)	評 価
教科指導	指 導 態 度 到達目標を明らかにし、一人ひとりのつまづきの原因などを見極めて、すべての生徒によく理解させようと努力したか。	A B C D
	知 識 ・ 技 能 話しことばや文字が明瞭で、教具を効果的に用いるとともに、適切な発問、応答、指示、説明等によって、生徒がいきいきとした授業を行うよう努力したか。	A B C D
	教 材 研 究 教材研究や教具の準備を怠らず、計画的且つ創意工夫のある指導を行ったか。	A B C D
生徒指導	生 徒 理 解 すすんで生徒に関わり、生徒一人ひとりをよく理解しようとしたか。	A B C D
	個 別 ・ 集 団 指 導 生徒一人ひとり、および学級集団全体に着目し、問題に応じて個別的・集団的に解決しようとしたか。	A B C D
	教 科 外 指 導 学級活動、クラブ活動などの指導を意欲的に行ったか。	A B C D
実習態度	勤 務 態 度 勤怠を含めて、実習の意欲や熱意は見られたか。	A B C D
	事 務 ・ 実 務 能 力 学級経営上の諸連絡、事前事後の報告、事務処理などを、効果的かつ責任をもって処理できたか。	A B C D
	提 出 物 教育実習記録、指導案、その他書類などを、主題に則して的確に記述し、期限を守って提出したか。	A B C D
	学 校 ・ 地 域 理 解 学校および地域の様子を理解しようと努力したか。	A B C D

総 合 評 価

A B C D	実習生としての努力と成果に着目して、A（優）、B（良）、C（可）、D（不可）のいずれかに○印をつけてください。 A（優）：たいへんすぐれた実習の成果をあげた。 B（良）：すぐれた実習の成果をあげた。 C（可）：ほぼ所期の実習成果をあげた。 D（不可）：ほとんど実習の成果があらなかった。
---------	--

概 評	

(お願い) 教育実習終了後2カ月以内に必ずご返送ください。

2022年 2月 8日

教育実習生受入承諾書

摂南大学

学長 荻田 喜代一 殿

学校名 寝屋川市立第二中学校

学校長名 楠 知樹

貴大学の教育実習生を令和5年度から受け入れることを承諾します。

記

1. 住 所 大阪府寝屋川市池田西町27番7号

2. 学級数 12 学級

3. 生徒数 459 人

4. 教員数

教 諭	22 人
助 教 諭	0 人
講 師	7 人
養 護 教 諭	1 人
養護助教諭	0 人
栄 養 教 諭	0 人

以 上

2022年 2月14日

教育実習生受入承諾書

摂南大学

学長 荻田 喜代一 殿

学校名 常翔学園中学校

学校長名 北尾 元一

貴大学の教育実習生を令和5年度から受け入れることを承諾します。

記

1. 住 所 大阪市旭区大宮5丁目16番1号

2. 学級数 12 学級

3. 生徒数 399 人

4. 教員数	教 諭	16	人
	助 教 諭	0	人
	講 師	8	人
	養 護 教 諭	2	人
	養護助教諭	0	人
	栄 養 教 諭	0	人

以 上

2022年 2月10日

教育実習生受入承諾書

摂南大学

学長 荻田 喜代一 殿

学校名 常翔啓光学園中学校

学校長名 山田 長正

貴大学の教育実習生を令和5年度から受け入れることを承諾します。

記

1. 住 所 大阪府枚方市禁野本町1-13-21
2. 学級数 9 学級
3. 生徒数 222 人
4. 教員数
- | | |
|-------|------|
| 教 諭 | 10 人 |
| 助 教 諭 | 0 人 |
| 講 師 | 6 人 |
| 養護教諭 | 1 人 |
| 養護助教諭 | 0 人 |
| 栄養教諭 | 0 人 |

以 上

2022年 2月14日

教育実習生受入承諾書

摂南大学

学長 荻田 喜代一 殿

学校名 常翔学園高等学校

学校長名 北尾 元一

貴大学の教育実習生を令和5年度から受け入れることを承諾します。

記

1. 住 所 大阪市旭区大宮5丁目16番1号

2. 学級数 46 学級

3. 生徒数 1,976 人

4. 教員数

教 諭	55	人
助 教 諭	0	人
講 師	35	人
養 護 教 諭	2	人
養護助教諭	0	人
栄 養 教 諭	0	人

以 上

2022年 2月10日

教育実習生受入承諾書

摂南大学

学長 荻田 喜代一 殿

学校名 常翔啓光学園高等学校

学校長名 山田 長正

貴大学の教育実習生を令和5年度から受け入れることを承諾します。

記

1. 住 所 大阪府枚方市禁野本町1-13-21
2. 学級数 33 学級
3. 生徒数 1,225 人
4. 教員数
- | | |
|---------|------|
| 教 諭 | 39 人 |
| 助 教 諭 | 0 人 |
| 講 師 | 20 人 |
| 養 護 教 諭 | 2 人 |
| 養護助教諭 | 0 人 |
| 栄 養 教 諭 | 0 人 |

以 上